

平成二年

## 日本思想史関係研究文献要目

### 凡 例

- 一、本要目には、平成二年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
- 一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。
- 一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。  
ⅠⅡとも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。
- 一、単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。
- 一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。
- 一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時間の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

# I 単行本目録

## 総 雑

王権の神話	井本英一	法政大学出版局
天皇の国・賤民の国―両極のタブー	沖浦和光	弘文堂
「即位の礼」と大嘗祭―歴史家はこう考える	編 歴史学研究会他	青木書店
大嘗祭―新史料で語る秘儀の全容	鳥越憲三郎	角川書店
日本の祭と大嘗祭	真弓常忠	朱鷺書房
日本キリスト教史	五野井隆史	吉川弘文館
庚申信仰―庶民宗教の実像	飯田道夫	人文書院
日本神道論	桜井勝之進他	学生社
「おもろ」の思想(上)(下)	崎間敏勝	琉球文化歴史研究所
死の民俗学―日本人の死生観と葬送儀礼	山折哲雄	岩波書店
神々の誕生―易・五行と日本	吉野裕子	〃
東国における仏教諸派の展開	内山純子	そしえて
東と西海と山―日本の文化領域	大林太良	小学館
政治思想史の方法(政治思想研究叢書)	小笠原弘親 飯島昇蔵 編	早稲田大学出版部

## 古 代

日本の経済思想家たち	杉原四郎	日本経済評論社
日本文化総合年表	市古貞次他編	岩波書店
古代王権と祭儀	黛 弘道編	吉川弘文館
ことばと時間―古代日本人の思想	伊藤 益	大和書房
日本古代学校の研究	久木幸男	玉川大学出版部
円珍(人物叢書)	佐伯有清	吉川弘文館
智証大師円珍の研究	小山田和夫	〃
記紀の思潮―資料併用	小笠原春夫	文化書房博文社
『日本霊異記』研究	朝枝善照	永田文昌堂
平安朝文学に見る二元的四季観	田中新一	風間書房
中 世		
古代中世寺院組織の研究(戊午叢書)	牛山佳幸	吉川弘文館
神祇信仰の展開と仏教(中世史研究選書)	今堀太逸	〃
日本中世の社会と宗教	黒田俊雄	岩波書店
中世寺院社会と仏堂	山岸常人	塙書房
中世関東の武士団と信仰	阿部征寛	同著作刊行会
日本中世における夢概念の系譜と継承	カラム・ハリール	雄山閣出版

真宗信仰の思想史的研究  
—越後蒲原門徒の行動と足跡(歴史科学叢書)

信西日本紀鈔とその研究

変貌する神と仏たち  
—日本人の習合思想

道元禅師全集七

天草学林とその時代

近世

近世の心身論

—徳川前期儒教の三つの型

浅見綱斎の研究 増訂版  
(神道史研究叢書)

「事件」としての徂徠学

本居宣長とその門流(二)  
(和泉選書五一)

和学者総覧

近世教育思想史の研究  
—日本における「公教育」

思想の源流

近世教育史料の研究

「勉強」時代の幕あけ—子どもと教師の近世史(平凡社選書)

江戸漢学の世界

奈倉哲三 校倉書房

中村啓信編著 高科書店

村山修一 人文書院

鈴木格禅他編・校注 春秋社

今村義孝 天草文化出版社

高橋文博 ペリかん社

近藤啓吾 臨川書店

子安宣邦 青土社

築瀬一雄 和泉書院

国学院大学日本文化研究所編 汲古書院

辻本雅史 思文閣出版

多田建次 玉川大学出版部

江森一郎 平凡社

徳田武 ペリかん社

近世日本の儒教と文化

江戸後期の比較文化研究

江戸っ子の生活(生活史叢書)

佐藤一斎全集一

民衆史料が語る大塩事件

大塩平八郎建議書

中浜万次郎集成

公武合体論の研究—越前藩幕末維新史分析 改訂版

日本の経済思想四百年

荀子注釈上における邦儒の活動(続篇)

近代

近代日本の哲学者

日本仏教史 近代

人権思想の源流と部落の歴史

近代化の推進者たち—留学生・お雇い外国人と明治

明治七年の大論争—建白書から見た近代国家と民衆

衣笠安喜 思文閣出版

源了圓編 ペリかん社

芳賀登 雄山閣出版

岡田武彦監修 明德出版社

中瀬寿一編著 晃洋書房

村上義光編著 文献出版

仲田正之編・校注 小学館

川澄哲夫編著 御茶の水書房

三上一夫 日本経済評論社

杉原四郎他編著 風間書房

藤川正数 風間書房

鈴木正編著 北樹出版

下崇道 北樹出版

柏原祐泉 吉川弘文館

石尾芳久 三一書房

アーダス・バークス編 思文閣出版

梅溪昇監訳 思文閣出版

牧原憲夫 日本経済評論社

宮崎滔天

佐藤常雄

葦書房

II 雑誌紀要論文目録

中村敬宇研究—明治啓蒙思想と理想主義(政治思想研究叢書)

荻原隆

早稲田大学出版部

総 雑

植木枝盛全集一、五、七、八

家永三郎他編

岩波書店

「異民族起源説」における「神功皇后の朝鮮觀」の検討

金光哲

紀要(京都部落史研)一〇〇

自由民権思想の研究 増補・改訂

松尾章一

日本經濟評論社

文化概念の理論的検討—問題の提起

岩崎允胤

歴史評論四七七

新島襄—人と思想

井上勝也

晃洋書房

日本技術思想史序説

飯田賢一

日本文化(拓殖大研)日本文化八

陸羯南研究

丸谷嘉徳

勁草書房

日本人の仏教的病氣観—古代から近代までの一系譜

池見澄隆

日本仏教学会年報 五五

陸羯南—「国民」の創出

小山文雄

みすず書房

現代の状況と思想史の根本問題—思想史研究序説(上)

堀光男

紀要(東洋大教養)二九

近代日本と徳富蘇峰

和田守

御茶の水書房

村落祭祀と集落形成—天理市荒蒔の宮座儀礼の検討

澤井浩一

研究紀要(大阪市立博物館)二二

木下尚江全集一

山極圭司編

教文館

幸徳秋水の日記と書簡 増補決定版

塩田庄兵衛編

未来社

琉球の国家儀礼と王権—王権・祭祀・刑罰をめぐって

真栄平房昭

新沖繩文学八五

大正デモクラシー研究—知識人の思想と運動 増補

太田雅夫

新泉社

青柴垣神事・諸手船神事の宇宙—海と山の祭祀空間

永藤靖

文芸研究 六四

大正デモクラシー期の教員の思想

栄沢幸二

研文出版

「修験」考

茂木秀淳

紀要(信州大教育)六八

石橋湛山研究—「小日本主義者」の国際認識

増田弘

東洋經濟新報社

真宗門徒宗教社会史序説 ミソキとハラへ

有元正雄

思想 七九一 紀要(皇学館大神道研)六

戦後政治史の中の天皇制

渡辺治

青木書店

運命を司る神々

三橋健

季刊日本思想史 三五

十三〜十九世紀の日本における北方地域の境界認識

「即位の礼」・大嘗祭を知るために―歴史学からみた天皇就任の儀礼

火継ぎ神事と大嘗祭

皇子誕生の秘儀―魔術王の系譜

大嘗祭の御禊行幸―古儀の採用と踏襲の意識

大嘗祭と政教問題

大嘗祭の起源とその思想―収奪・服属・聖別の呪術儀礼

大嘗祭における神仏隔離―その変遷の通史的検討

日本人の公・私観念―その基礎構造と国際性

源了圓著『型』

古代

常世国の存在位置と不老不死性の関係についての一考察

死と他界―日本古代の死生観と他界観

榎森 進

歴史学研究 六二三

岡田 精司

歴史評論四八八

平井 直房

神道史研究 三八―三

山折 哲雄

思想 七九七

中嶋 宏子

神道宗教 一四〇・一四一

大原 康男

”

沖浦 和光

部落解放 三一六

佐藤 眞人

国学院雑誌 九一―七

斎藤 吉雄 他

研究報告別巻 (東北大 日本文化研) 二七

広 神 清

日本思想史学 二二

勝 俣 隆

研究報告 (長崎大 教育 人文科学) 四一

小林 道憲

日本及日本人 一五九九

古代日本人の自然観―『古事記』を中心に (三)

『古事記』の世界構造―「こ」との展開としての古代史

『古事記』王権神話における日向神話の特異性―日向神話成立論序説

「記序」における天武天皇詔と阿礼への勅語と誦習について

『古事記』と殯―記編纂者の理念

『古事記』は過去だけでなく、恒に現在を語つてゐる

神話と歴史―『古事記』と『日本書紀』との異質性

『古事記』の「倭」と『日本書紀』の「日本」について

神武東征伝説の一考察―大陸系渡来人の移住とその文化摩擦について

神武大和平定物語の素材と構成―忍坂伝承を中心として (上)

神と人―天皇即神の思想と表現

『日本書紀』「神代」の世界像―その問題点をめぐって

舟橋 豊

言語文化論集 一一―二

千歳 竜彦

千里山文学論集 四三

松本 直樹

紀要 (早稲田大学院 文学) 別冊 一

西宮 一民

紀要 (皇学館大) 二八

及川 智早

国文学研究 一〇二

川副 武胤

古代文化 四二―七

金井 清一

国語と国文学 六七―五

小川 幸代

古事記年報 三二

本位田 菊士

日本書紀研究 一七

滝口 泰行

国学院雑誌 九〇―一二

神野志 隆光

国語と国文学 六七―一一

”

紀要 (東京大 教養 人文科学) 二四

”

国文学 二四

”

”

”

”

背面の国は女護の国々―伊邪那美神はなぜ出雲国と伯伎国との堺に葬られるか

川副武胤

東北生活文化論  
文集 九

太詔戸命考―天児屋根命同神説をめぐって

川端守幸

神道史研究  
三八―二

海佐知毘古・山佐知毘古の神話の構造と機能―庶民の神話の王権神話への変容

平野仁啓

文芸研究 六四

班幣祭祀の成立  
律令国家祭祀と大宝神祇令―弘仁式祭祀大中小条をめぐって

古川淳一

歴史 七四  
ヒストリア 一二七

大穴持命の出雲統一―『出雲風土記』の歴史的研究

志賀剛

神道学 一四四

撰政・関白の神齋について

鳥羽重宏

古代文化 四二―四

『日本文徳天皇実録』備考(稿)

竹居明男

国書逸文研究 二三

〈天つ水〉考

金子善光

国学院雑誌 九一―七

太白神による方忌み―平安京および寝殿造からみた

飯淵康一

日本建築学会  
画系論文報告集 四一―一

「天下(あめのした)」の絶対性・悠久性―「天下」と「天地」の関係

松本直樹

国文学研究 一〇一

崇神記祭祀伝承考

猿田正祝

紀要(国学院大  
院文学) 二一

紫式部と中庸思想

尾田綾子

比較思想研究 一六

中臣寿詞論

金子善光

神道宗教 一四〇・一四一

直会文化論―辰日節会・巳日節会について

倉林正次

国学院雑誌 九一―七

古代大祓の基礎的研究

三宅和朗

史学 五九―一

古代氏族と宗教(二)

日野昭他

紀要(龍谷大  
仏教文化研) 二八

諸国大祓考

〃

史学 五九―一  
黛弘道編『古代  
王権と祭儀』(吉  
川弘文館)

記紀神話における伊勢神宮の機能

永藤靖

文芸研究 六三

大祓の成立と展開

三橋正

神道古典研究 一二

『古事記』に於ける「天神」と「天神御子」

毛利正守

国語国文 五九―三

神の力と人の力―信仰観の変遷と勝利者側の反乱伝承

長野一雄

上代文学 六五

『古事記』における天照大御神―『古事記』神話における男女神の構図(二)

川副武胤

史学論集(就実  
女子大) 五

聖徳太子と道教思想

王勇

季刊日本思想史 三四

『日本書紀』の「明神」に就いて

稲岡耕二

紀要(東京大  
教養人文科学  
国文学・漢文学) 二四

国分寺発願考

若井敏明

続日本紀研究 二七〇

東大寺天地院の創立と行基

吉田靖雄

日本仏教史学 二四

行基の宗教運動

森田 悌

紀要（金沢大）  
教育（人文科学）  
・社会科学）  
三九

聖宝理源大師説話—古代弥勒思想の視座から

稲田 篤信

日本文学  
三九—一

『日本靈異記』における『法華経』の位置について

増尾 聡哉

駒沢国文 二七

初期の神仏交渉について—『多度神宮寺伽藍縁起并資財帳』をめぐって

脊古 真哉

東海仏教 三五

最澄の運命観

中野 雅之

季刊日本思想史  
三五

伝教大師の教育観（二）

岩本 光悦

紀要（山口大）  
教養（人文科学）  
二三

『頭戒論』にみる機と教  
最澄の遺言状について—仁和寺本求法書を中心として

木内 堯央  
遠藤 順昭

天台学报 三二  
古代史の研究 八

現存文書より見た智証大師円珍の性格の一側面

小山田 和夫

立正史学 六八

台密の機根論に関する一問題

大久保 良峻

天台学报 三二

安然『勘定草木成仏私記』について

末木 文美士

東方学 八〇

わが国宮廷における仏事に  
関する編年史料—六国史による

竹居 明男

人文学（同志社大）  
一四八

『栄華物語』にみえる法華八講

安東 大隆

紀要（別府大）  
三一

『大鏡』が語る「怨霊」

松本 治久

中古文学 四四

『北野天神縁起』における尊意の説話について

田中 徳定

駒沢国文 二七

『本朝法華験記』の冥界思想—後期撰関時代における宗教史上の一樣相

竹居 明男

古代学協会編  
『後期撰関時代史の研究』（吉川弘文館）

鎮源撰述『本朝法華験記』における法華信仰の諸相

華園 聰麿

研究報告（東北大）  
日本文化（研）  
二六

藤原宗忠の来世信仰

小原 仁

日本歴史五〇二

「法門百首」の法文題をめぐって—天台浄土教思想の輪郭

三角 洋一

紀要（東京大）  
教養（人文科学）  
九一

平安貴族の仏教信仰—特に撰関期における信仰意識と信仰形態の変遷について

三橋 正

日本仏教史学 二四

転女成仏説の受容について

小原 仁

歴史評論四七九

女性と信仰—往生伝の中の女性

〃

〃

六勝寺、修正会儀礼の構造—饗宴・咒師・天皇

松尾 恒一

日本民族学 一八四

古代日本に於ける仙人信仰について

松田 智弘

東方宗教 七六

物忌と陰陽道の六壬式占—その指期法・指方法・指年法

小坂 眞二

『後期撰関時代史の研究』

『万葉集』にみられる「無常」の觀念の受容

根村 直美

日本思想史学 二二二

歌の領分 神の領分—『万葉集』の場で—日本思想の姿と構造(一)

野崎守英

紀要(中央大文) 一四一

天皇即神の発想と大嘗祭

桜井満

国学院雑誌 九一—七

『源氏物語』の時間性に関する一、二の問題

榎本正純

紀要(和歌山大学) 教育 人文科学 三九

大嘗祭と新嘗祭の地域的構造

井上辰雄

〃

『大鏡』の「語り手」と「聴衆」—「記録者」をめぐる

稲垣智花

中古文学 四五

再び大祀と大嘗祭について—田中卓博士・川北靖之氏の御高批を拝して

高森明勅

〃

天神信仰を支えたもの

藤原克己

国語と国文学 六七—一一

神宮祭祀と天皇祭祀—神宮三節祭由貴大御饌神事と神今食・新嘗祭の祭祀構造

小松馨

〃

六道の辻

久野昭

日本研究 三

天皇祭祀と国制機構—神今食と新嘗祭・大嘗祭

岡田莊司

〃

『栄花物語』『大鏡』の歴史観—皇位と権勢

篠原昭二

紀要(東京大) 教養 人文科学 国文学・漢文学 二四

八神の一考察—大嘗祭齋院八神と神祇官西院八神について

西牟田崇生

〃

『信貴山縁起絵巻』の飛鉢について

阿部猛

日本社会史研究 二九

大嘗・新嘗祭と真床追衾

松前健

神道宗教 一四〇・一四一

天書の本文と解題

白山芳太郎

紀要(皇学館大) 二八

マドコオブスマと王者誕生儀礼

吉田清

花園史学 一一

五節舞起源伝説考

三橋健

国学院雑誌 九一—七

大嘗祭と大嘗会

黒崎輝人

紀要(江戸川女子短大) 五

大嘗祭と文学誕生の場

三谷榮一

〃

「まどこ・おふすま」論

谷川健一

民俗文化 二

和銅元年戊申元明天皇御製—解釈学的試論

森田康之助

〃

神祇令と即位儀礼

溝口睦子

『古代王権と祭祀』

悠紀主基小考—大嘗祭の二元的世界観

鈴木正崇

〃

相嘗祭の成立と天高市神話

中野高行

『古代王権と祭祀』

民俗学における大嘗祭

宇野正人

〃

「治天下」と「宮」と「大王」と

川副武胤

『即位の礼と大嘗祭』(生田神社)

「天皇霊」小考

佐野和史

〃

〃



除目の「道理」

曾我良成

論集(名古屋学  
院大) 人文・自  
然科学) 二七一

藤原宗忠の国政観について

杉本理

仏教史学研究  
三三—二

律令国家における災異思想  
—その政治批判の要素の分  
析

松本卓哉

『古代王権と祭  
儀』

祓論ノート—平安京大祓の  
場の分析

山本幸司

三田学会雑誌  
八二(特別号二)

大祓の構造と変遷

並木和子

神道学  
一四六・一四七

触穢制度史稿(最終回)

小堀邦夫

福大史学(福島  
大) 五〇

衛門府とケガレのキヨメ

伊藤喜良

福大史学(福島  
大) 五〇

よごれの京都・御霊会・武  
士—続・酒吞童子説話の成  
立

高橋昌明

新しい歴史学の  
ために 一九九

新羅進調の思想像—「諸珍  
財」の飛鳥大仏献納

新川登亀男

日本史研究  
三三三

古墳壁画と礼制—服飾史か  
らみた律令国家の思想

千歳竜彦

史泉 七一

日本律令国家の中華思想  
—奈良時代の対新羅意識の  
展開を中心に

藤原直哉

史泉 七二

岡田重精著『齋忌の世界  
その機構と変容』

櫻井治男

皇学館論叢  
三二—二

吉田靖雄著『日本古代の菩  
薩と民衆』

勝浦令子

史学雑誌  
九九—三

山中裕著『藤原道長』

目崎徳衛

古代文化  
四二—三

中世

中世の女性と日記—「日記  
の家」の視点

松蘭 斉

金沢文庫研究  
二八五

看とりの精神—現代と中世  
の交響

池見澄隆

仏教文化研究  
三四

中世宮廷の学問をめぐる問  
題—花園天皇の動向につい  
ての再検討

長永孝弘

白山史学 二六

源有仁編の儀式書の伝来と  
その意義—「花園説」の系  
譜

田島公

史林 七三—三

積極的運命観の抬頭と展開  
—南北朝期以降の運命観

石毛忠

季刊日本思想史  
三五

金沢称名寺第二世釵阿作  
『日本紀私抄』—翻刻と解  
説

佐藤真人

大倉山論集二六

新出聖徳太子伝二種(承前)

牧野和夫

論集(斯道文庫)  
二四

承久の乱後の日本の歴史思  
想

ジョン・ブラウ  
ンリー

季刊日本思想史  
三四

北畠親房と即位灌頂

桜井好朗

日本歴史五〇〇

訂 『神皇正統記』の執筆と修  
訂

時野谷 滋

芸林 三九—三

『神皇正統記』の「童蒙」  
と「疎カナル類」

〃

常総の歴史 五

『神皇正統記』の成立と小田城・関城

海老原 トミ

〃

中世後期における寺院秩序と修験道

〃

日本史研究 三三六

中世北辺の仏教

佐々木 馨

羽下徳彦編『北日本中世史の研究』(吉川弘文館)

法然における死と看死の問題(二)

鍋島 直樹

論集(竜谷大) 四三六

高山寺とアジール

平泉 洸

神道史研究 三八一

親鸞上人の世俗観

山崎 龍明

紀要(武蔵野女子大) 二五

『吾妻鏡』における仏典と法令・修法について

榎本 榮一

東洋学研究(東洋大) 二四

還相をめぐって

柏原 祐泉

所報(同朋学園) 五

続・中世の尼寺ノート(一)

牛山 佳幸

紀要(信州大) 七〇

初期本願寺教団における顕密諸宗との交流―覚如と存覚の修学を基にして

佐藤 正英

親鸞教学 五六

続・中世の尼寺ノート(二) 中世仏教者と夢

カラム・ハリール

寺院史研究 一三四

蓮如と石山本願寺―大坂を中心にして

山田 雅教

仏教史研究 二七

『解脱上人戒律興行願書』に於ける「律供」について

兼子 恵順

印度学仏教学研究 三八―二

親鸞教学における「弾圧」の意味(中)

上場 顕雄

懐徳 五九

西大寺流による道明寺の「復興」について―道明寺天満宮所蔵の一史料並びに道明寺縁起の検討

澤 博勝

ヒストリア 一二七

『正法眼蔵』の性格―七五巻本と一二巻本

角田 泰隆

研究紀要(駒沢大) 四八

西大寺流の組織力と勢力拡大―叡尊の諸活動の再検討を中心にして

〃

日本歴史五〇三

『正法眼蔵』における大鑑慧能

原田 弘道

〃

金沢文庫の叡尊・忍性関係資料について

福島 金治

MUSEUM 四七四

達磨宗の展開について

中尾 良信

季刊日本思想史 三六

恵鎮円観を中心とした戒律の復興―北嶺系新義律僧の成立

松尾 剛次

三浦古文化 四七

『守護国家論』と『立正安国論』―その念仏排撃をめぐって

佐藤 弘夫

『北日本中世史の研究』

中世後期における顕密寺社の組織の再編―修験道本山派の成立をめぐって

長谷川 賢二

ヒストリア 一二五

日蓮における回心の構造―少・青年期の宗教的探究にいたる懐疑を中心として

大久保 雅行

九州大学国史学研究所編『古代中世史論集』(吉川弘文館)

日蓮における神祇観の変遷について	城山芳幸	神道史研究 三八—三三	山王神道の文化史的考察 『近江国日吉神社神宝図』 を中心として	嵯峨井 建	神道宗教一三九
死をめぐる日蓮の二、三の文章	高木 豊	国語と国文学 六七—七一	玄旨婦命壇と本覚思想—摩多羅神を手がかりに	曾根原 理	日本思想史研究 二二
日蓮上人遺文における阿育王説話について	龍門義通	紀要(日蓮教学研) 一七	北信濃の熊野修験道、及び戸隠山修験道の重層活動について	村杉 弘	紀要(信州大教育) 七一
日蓮上人の題目論—日蓮上人の唱題思想の背景	丸茂龍正	〃	修験道より見た福島県の山岳信仰	岩崎 敏夫	紀要(東北学院大東北文化研) 二二
日蓮上人の浄土観について	笹津海道	〃	諏訪信仰の神道—上野国の場合を中心に	近藤 義雄	群馬文化二二四
日蓮上人の五義判について—「国」を中心に	野口真澄	〃	諏訪神社上社大祝の性格の考察(一)	宮坂 光昭	信濃 四二—四五
日蓮真蹟遺文の伝承—中山法華経寺初祖日常(富木常忍)の場合	中尾 堯	立正史学 六七	御室祭祀と大祝—中世の諏訪祭祀	島田 潔	紀要(国学院大文学) 二一
日蓮遺文における仏伝説話考	黒部通善	紀要(愛知学院大教養) 三七—三三	大内氏の妙見信仰と興隆寺二月会	平瀬 直樹	研究紀要(山口県文書館) 一七
聖徳太子南嶽慧思後身説の変遷	中尾良信	研究紀要(花園大) 二一	中世における武家の『軍神』信仰	樋口 誠太郎	研究報告(千葉県立中央博物館人文科学) 二
時衆の教線拡大の動きについて—時衆から時宗へ	中村敏子	専修史学 二二	厳島神社の宝蔵信仰について	松井 輝昭	紀要(広島県立文書館) 二
石清水社に於ける「穢」の問題	鍛代敏雄	紀要(国学院大文学) 二一	『造伊勢二所太神宮宝基本記』における「心乃神明之主他利」—伊勢神道説の形成をめぐる	新川 哲雄	調査研究報告(学習院大東洋文化研) 三一
『耀天記』索引	松本公一	国書逸文研究 二二三	唐招提寺釈迦如来像胎内文書と女性・虫・非人	細川 涼一	歴史評論四八三
『山王絵詞』詞書について(二)—巻五第五段—巻一二第二段	〃	文化史学 四六			

「本福寺跡書」に関する一考察 神田千里 仏教史学研究 三三—二

本願寺の内衆下間氏と手能—真宗文化史的観点から 篁谷真智子 史窓 四七

放下僧・暮露にみる中世禅宗と民衆 原田正俊 ヒストリア 一二九

異類・異形とその思想 金光哲 鷹陵史学 一六

天皇の代替りと真宗—西本願寺教団の場合 赤松徹真 竜谷史壇 九六

禅宗寺院と地域社会—近世初期の引導法語と過去帳の分析を通して 広瀬良弘 戦国史研究会編『戦国期東国社会論』(吉川弘文館)

「諷誦文」生成考 今成元昭 国文学研究 一〇二

『梁塵秘抄』二句神歌、石清水歌の若宮の伝承 鈴木佐内 智山学報 三九

鎌倉中期釈教歌の一展開—観無量寿経歌を通して 部矢祥子 国文学論叢三五

『古来風躰抄』と狂言綺語 観 渡部泰明 国語と国文学 六七—一一

『新古今集』の美意識 馬場あき子 短歌三七—五

和歌にみる北畠親房の思想 白山芳太郎 季刊日本思想史 三六

『さゝめごと』試論—その仏教的要素(二) 石原清志 紀要(神戸女子大) 二三—一一

心敬の相即論—連歌・連歌論と本覚思想の関連に着目して 菅基久子 日本思想史研究 二二

『さゝめごと』における「えん」論の構造 菅基久子 日本思想史学 二二

禅竹の「幽玄」と本覚思想の「元初ノ一念」 三崎義泉 天台学報 三三

文学に現われた天台本覚論—歌謡と和歌の場合 山田昭全 国語と国文学 六七—一一

奄美の平家伝説—修験道文化の足跡 岩瀬博 紀要(大谷女子大) 二五—一一

「死」への想い—『平家物語』の語るもの 沼波政保 論叢(同朋大) 六二

護良親王の人間像と中国故事説話—『太平記』における中国故事説話の方法 邱鳴 都大論究 二七

『太平記』の天竜寺造営記事について 中西達治 研究紀要(名古屋立女子短大) 四四

『太平記』の発端—巻一の歴史叙述について(二) 大森北義 紀要(名古屋女子大・人文・社会) 三六

『太平記』の精神—成立事情に関連して 八木聖弥 文化史学 四六

鎮魂の位相—『曾我物語』の基底から 会田実 国文学研究 一〇二

叡山における諸領域の交点・酒天童子譚—中世聖徳太子伝の裾野 牧野和夫 国語と国文学 六七—一一

歴史物語に見る政治性について—『増鏡』を中心とする一考察 河北騰 教養諸学研究(独協大) 二五

中世説話の構造における夢の役割と東北における展開 佐々木孝二 文経論叢(弘前大・人文) 二五—三

説話の（成立と伝承）に関する一考察―証言者・伝承者の風貌を求めて―『閑居友』を中心に	林恒徳	国文学解釈と教材の研究 三五―一四	相楽氏法度十八条の世界	安野眞幸	文化紀要（弘前大） 教養）三一
紀行・絵図にみる中世北日本の空間認識	岩鼻通明	『北日本中世史の研究』	再考・「殺生禁断」法―悪党の発生と「殺生禁断」法	櫻井彦	民衆史研究 四〇
絵語りの中世―祇園社大政所絵図の宗教儀礼性と物語性	徳田和夫	調査研究報告（学習院大） 東洋文化研）三一	南北朝期博多文化の展開と対外関係	川添昭二	『地域における国際化の歴史的研究―九州地域における―』（九州大） 文）
世阿弥における「老い」の意識	生田勝彦	紀要（高知女子大） 人文・社会科学） 三八	中世における正統イデオロギ―と民衆的認識の世界―中世説話の中の「民衆神学」	斉藤利男	地方史研究協議会編『交流の日本史―地域から歴史―』（雄山閣）
中世芸道論における修道論序説―初心・後心・初中後など（下）	石黒吉次郎	専修人文論集 四六	『玉葉』における九条兼実と源頼朝の関係―「親幕派兼実」の再検討	遠城悦子	法政史学 四二
融通念仏と能	金井清光	紀要（清泉女子大） 三七	北条重時『家訓』の研究	市川浩史	紀要（群馬県立女子大） 一〇〇
翁猿楽成立期の研究をめぐって	山路興造	芸能史研究 一〇九	鎌倉幕府の「悪党」認識と本所一円領	渡辺浩史	研究紀要（日本大） 人文科学研） 四〇
姥岳神婚譚と緒方惟栄―異類婚姻譚（蛇婿入）に関する一試論	荒川良治	史学論叢（別府大） 二一	河原者・菊・天皇	丹生谷哲一	日本歴史五〇二
改元と私年号	千々和到	歴史評論四七七	バサラ大名の虚と実―佐々木道誉の場合	佐藤和彦	紀要（東京学芸大） 社会科学） 四一
文武兼行の撰録臣―『愚管抄』における歴史と希望	山本一	国語と国文学 六七―一一	『古今著聞集』における武士関係説話について	澤野泉	郷土神奈川二七
南北朝期の天皇観―中世政治思想に関する一考察	上中修三	修道法学 一二―一	中世貴族の見た夢の世界―『台記』を題材にして	史艸	三一
戦国期における天皇權威の浮上（上）	脇田晴子	日本史研究 三四〇			
明初洪武期の日本国王	秦野裕介	日本思想史研究会報 八			

『留守家旧記』にみる大力の女と白拍子 細川涼一 中新田町史研究 三

静小論 // 研究紀要(京都橘女子大) 一六

「菖蒲茶」「菖蒲」「箒」 横井清 国際文化論集(桃山学院大) 二

「中世後期」近世初頭生活 菅田慶信 史学論集(山形大) 一〇

松尾剛次著『鎌倉新仏教の成立』入門儀礼と祖師神話 平雅行 史学雑誌 九九―三

松尾剛次著『鎌倉新仏教の成立』入門儀礼と祖師神話 松尾剛次 史学雑誌 九九―一〇

鎌倉新仏教論の深化をめざして―平雅行氏の書評に答える 松尾剛次 史学雑誌 九九―一〇

安田元久先生退任記念論集刊行委員会編『中世日本の諸相』下巻 藺部寿樹 史学雑誌 九九―七

中世寺院史研究会編『中世寺院史の研究』上・下 稲葉伸道 日本史研究 三二九

中野豈任著『祝儀・吉書・呪符』中世村落の祈りと呪術『忘れられた霊場』中世心性史の試み 藤原良章 史学雑誌 九九―二

中野豈任著『忘れられた霊場』中世心性史の試み 勝田至 日本史研究 三三〇

広瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』 追塩千尋 史学雑誌 九八―一一

村井章介著『アジアのなかの中世日本』 関周一 歴史学研究 六〇三

近世

徳川思想研究序説(一) 緒方康 文学論叢(愛知大) 九五

儒学史の異同の一解釈―「朱子学」以降の中国と日本 渡辺浩 思想 七九二

徳川前期儒教の性格 黒住真 // 日本思想史学 二二

徳川前期儒教と身分秩序 佐久間正 日本思想史学 二二

甫庵本『信長記』に引用された漢籍―『管蠡抄』との関係を中心として 鈴木望 東洋文化(無窮会)復刊 六四

林家の弘文院学士と弘文院・弘文館―中国史と関連して 斉藤實郎 // 陽明学(二松学舎大)陽明学 二

藤樹学の基調 萩生茂博 陽明学(二松学舎大)陽明学 二

藤樹思想の特色とその成立―本体観を中心として 藤田寛 斯文 九九

権・時処位・心―中江藤樹の思想 樋口浩造 日本思想史学 二二

山崎闇斎の葬祭説 近藤啓吾 神道史研究 三八―二

垂加霊社創祀の意義 // 芸林 三九―一

垂加神道における文学とイデオロギー―近世的異界をめぐって 百川敬仁 国語と国文学 六七―一一

<p>崎門の朱子学における「情」の重視—浅見綱斎の『仁説問答師説』を中心として語録に現はれたる浅見綱斎像</p>	牛尾弘孝	中国哲学論集 一六	井上厚史	〃
<p>鈴木暎一氏「『大日本史』の統編計画をめぐって」吹毛</p>	飯田瑞穂	中央史学 一三	〃	源了圓編『江戸後期の比較文化研究』(ぺりかん社) 〃
<p>運命的天・性・勢いの生成についての一考察</p>	檜原孝俊	季刊日本思想史 三五	田尻祐一郎	季刊日本思想史 三五
<p>山鹿素行の「天命之性」解釈と性善説批判</p>	立花均	〃	玉懸博之	『江戸後期の比較文化研究』 〃
<p>『仁斎旧集』から『古学先生文集』へ</p>	清水茂	ビブリア(天理図書館報) 九五	印藤和寛	懐徳 五九
<p>古義堂文庫蔵 伊藤東涯『初見帳』(四)(五)</p>	山根陸宏 岸本眞実	九四・九五 九四・九五	宮川康子	日本学報 九
<p>朝鮮時代の通信使と日本の文壇—一七二一年の使行事、林家及び木下順庵門との交流を中心に</p>	朴昌基	コリアナ一九九〇年夏季号	岩見輝彦	懐徳 五九
<p>朝鮮通信使と江戸時代の文人たち</p>	李元植	文学・芸術・文化(近畿大芸)	若尾政希	研究報告(東北大) 二六
<p>徂徠学の「道」に関する二つの問題</p>	田原嗣郎	日本歴史五〇四	山崎庸男	史学雑誌 九九一七
<p>徂徠学における「制度」の人間形成機能・論に関する一考察—二項対立的人間観との関係において</p>	河原国男	紀要(宮崎大教育学) 六八	徳田武	教養論集(明治大) 二二二
<p>荻生徂徠『政談』考(一)</p>	松村宏	慶応思想史林一	玉懸博之	研究報告(東北大) 二六
<p>荻生徂徠の公私観と政治思想</p>	本郷隆盛	日本思想史学 二二	矢嶋道文	短大論叢(関東学院女子短大) 八四
<p>徂徠の言語観と「天命」の問題について</p>	源了圓	江戸後期の比較文化論的研究	〃	〃
<p>江戸後期における儒教と仏教との交渉</p>	〃	江戸後期における儒教と仏教との交渉	〃	〃
<p>太宰春台『論語古訓外伝』のなかの「命」</p>	田尻祐一郎	太宰春台の歴史思想	〃	〃
<p>「鶏肋集叙」—富永仲基最後の文章—について</p>	印藤和寛	反徂徠としての富永仲基	〃	〃
<p>『日本春秋』の歴史意識</p>	宮川康子	青年時代の三浦梅園	〃	〃
<p>天変地異の思想—安藤昌益の天人相関説と西川如見</p>	若尾政希	安藤昌益をめぐる人物—医者・錦城	〃	〃
<p>遠山荷塘と広瀬淡窓</p>	山崎庸男	遠山荷塘と広瀬淡窓	〃	〃
<p>林子平の思想—徂徠学派の思想の摂取の一形態</p>	玉懸博之	林子平の思想—徂徠学派の思想の摂取の一形態	〃	〃
<p>林子平・工藤平助の「富国思想」(一)—日本における「重商主義」思想の萌芽</p>	矢嶋道文	林子平・工藤平助の「富国思想」(一)—日本における「重商主義」思想の萌芽	〃	〃

懷徳堂の人々(六)——中井竹山 小堀一正 懷徳 五九

近世の家康研究と『逸史』 高橋章則 季刊日本思想史 三六

中井履軒『百首贅々』——眞淵批判と景樹『百首異見』への影響 福島理子 懷徳 五九

『孟子雕題』・『孟子雕題略』・『孟子逢原』の関係について 杉山一也 //

林信敬と林述斎の位置——正学派朱子学との関係より日本考証学の成立——大田錦城 中村安宏 文芸研究一二四

仁井田好古における性・道・教と経世説 滝野邦雄 『江戸後期の比較文化研究』

谷三山と松隈元庵の『筆談』 安永実 斯文 九九

江戸後期の朱陸論——その由来を論じて——斎・中斎に及ぶ 吉田公平 『江戸後期の比較文化研究』

新発見の大塩平八郎建議書類について 仲田正之 日本歴史五〇九

大塩平八郎覚え書 三谷秀治 大塩研究 二八

大塩事件と朝廷・幕府 藤田覚 //

水戸学藤田派農政論の認識と思想 小室正紀 三田学会雑誌 八二特別号II

水戸学立原派における「民富論への模索」——小宮山楓軒と大内正敬を中心として //

会沢正志斎と『職方外紀』 水代勲 芸林 三九—二

門人帳資料『訂正 及門録』からみた象山塾の入門者——幕末期における「東洋道徳・西洋芸術」の教育的展開 坂本保富 日本歴史五〇六

堀口貞明の思想と行動 阿部征寛 紀要(横浜開港資料館) 八

横井小楠の「三代の学」における基本的概念の検討 源了圓 アジア文化研究 二

近世儒学の変容と日本主義 李秀石 紀要(早稲田大学院 文学部 哲学) 別冊一六

『講孟余話』を中心に 鳥井裕美子 史学論叢(別府大) 二〇

近世ヨーロッパ認識の二つの流れ 石田純郎 日蘭学会会誌 一五—一

朝鮮の西学と日本の蘭学——西洋学を受容に際しての日朝両国の比較 吉田忠 『江戸後期の比較文化研究』

蘭学と蘭学者 幸津国生 社会福祉 三〇

司馬江漢の人間観 吉田厚子 日蘭学会会誌 一四—二

大槻玄沢『環海異聞』と北方問題 吉田忠 研究報告(東北大学 日本文化研) 二六

『曆象新書』の研究(二) 別所興一 日蘭学会会誌 一四—二・一五—一

渡辺崋山の教育思想(一)(二) 岩下哲典 洋学史研究 七

小関三英のオランダ史研究 岩下哲典 洋学史研究 七



実学と共同体—華岡門駿州  
中村順助を事例として

末中 哲夫

実学資料研究会  
編『実学史研究』  
(思文閣出版) VI

桂川甫賢再考—在蘭資料に  
みるW・ボタニクス

鳥井 裕美子

日蘭学会会誌  
一五—一

御目見医師の医家、倫理に  
ついて—杉田成卿の場合

石井 孝

大倉山論集二八

荷田在満『大嘗会便蒙』御  
咎め一件

古相 正美

神道宗教  
一四〇・一四一

本居宣長研究文献目録補遺  
(四)

岡田 千昭

紀要(愛知学院  
大 教養)  
三八—二

晩年の秋成と「樊噲」—秋  
成における国学と仏教の  
接点

山本 秀樹

国語国文  
五九—一

「血かたばら」の平城帝像  
—国学の裏面劇

山下 久夫

立命館文学  
五一—五

佐藤信淵の秋田藩政改革論  
—『別後日記』を通して

渡部 綱次郎

研究報告(秋田  
県立博物館)  
一五

本居大平晩年の動向—自著  
刊行への胎動

高倉 一紀

所報(皇学館大  
神道研)三九

水戸学と国学の関係—平田  
篤胤の水戸藩仕官運動を  
めぐって

梶山 孝夫

芸林 三九—三

平田神道の庶民性

高橋 美由紀

『江戸後期の比  
較文化研究』

平田国学への一視点—その  
ナショナルリズムの特質を  
めぐって(一)

阿部 茂

研究報告(山梨  
大 教育 人文  
科学) 四〇

「草莽の国学者」宮負定雄  
の思想的意義—平田国学  
と民俗

青木 満

日本思想史研究  
会会報 八

神道思想と部落差別

石尾 芳久

法学論集(関西  
大) 三九—四・五

江戸時代の大嘗祭

今江 廣道

国学院雑誌  
九一—七

絵図に見る即位式・大嘗祭  
の諸問題

加藤 隆久

〃

保科正之の葬儀(附吉田神  
道の葬祭説)

近藤 啓吾

神道史研究  
三八—一

神道祭式と陰陽道—『唯一  
神道事相方内伝草案之  
巻』を中心として

遠藤 克己

神道宗教一三八

幕末神道思想の形成と展開

伴 五十嗣郎

神道古典研究  
一二

安政五年の『遐邇頭幽測量  
發秘』について—紹介と翻  
刻

武田 秀章

神道学 一四五

文久・元治期における神武  
天皇祭の成立(下)

〃

神道宗教一三八

幕末維新に於ける神葬説と  
その実行

近藤 啓吾

神道学  
一四六・一四七

南部藩英学の濫觴

藤原 暹

岩手史学研究  
七三

近世越後の学問と教育

井上 慶隆

新潟県史研究  
二八

近世徳島藩における民衆の  
教育需要

名倉 佳之

徳島地方史研究  
会創立二十周年  
記念論集刊行委  
員会編『阿波・  
歴史と民衆II』

幕末・維新期長州藩における民衆意識  
山口県地方史研究 六三

手島堵庵私新抄(五)  
帝塚山大学論集 六七

尊徳研究ノート(三)―尊徳と『中庸』  
経済論集(大東文化大 経済学会) 五一

近世農村における学習・文化活動の基盤(一)―学習・文化活動の指導層としての上層農民  
研究紀要(淑徳大) 二四

近世中期地域社会における文化と思想―田住貞義をめぐって  
兵庫県の歴史 二六

奥三河の村の知識人  
紀要(愛知大 総合郷土研) 奥三河特集号

幕末在村「知識人」の儒学知の性格―一八三〇年代の信州松尾亨庵の事例  
日本の教育史学 三三

白鳥信仰と近世南奥の民衆意識―日本武尊・用明帝そして安倍則任  
地方史研究協議会編『交流の日本史―地域からの歴史像』(雄山閣)

東方朔追尋―近世陰陽道書の受容過程をめぐって  
西郊民族一三三

晴明塚考―五条河原・清水坂に生きた人々の信仰  
紀要(京都部落史研) 一〇

黒住教と日比野派の周辺  
神道宗教一三九

豊前におけるキリスト教受容の構造―『下毛郡伴天蓮門徒御改帳』の分析  
キリスト教史学 四四

近世仏教と対キリシタン問題(三)  
印度学仏教学研究 三八―二

近世仏教の歴史像―大桑斉氏の「反論」によせて  
仏教史学研究 三三―二

教如の木仏下付について  
紀要(同朋学園 仏教文化研) 一二

北陸地方真宗異安心考序説(二)―近世異義者所論顛末と思想的展開  
報告(日本海域研) 二二

日光天海蔵の『秘伝集』について  
大久保良順 天台学報 三二

寺社縁起と徳川光圀―甕星香背男の伝承をめぐって  
志田諄一 溯源東海 四

江戸幕府による寺院支配の完成―元禄期高野山行人派僉議一件  
笠原正夫 安藤精一編『紀州史研究』(国書刊行会) 五

靈空光謙の玄旨帰命壇批判  
平田厚志 論集(竜谷大) 四三六

靈空光謙の玄旨帰命壇批判―幕府の宗教政策との関連で  
曾根原理 歴史 七五

諦忍律師の史伝観をめぐって―『本朝高僧伝』と『元亨釈書』に対し  
川口高風 紀要(愛知学院大 教養) 三七―三

諦忍律師の唯称上人伝について  
野郷を中心にして  
所崎平 小野重朗先生傘寿記念論文集刊行委員会編『南西日本の歴史と民族』(第一書房)

天保度の一宗改め―串木野郷を中心にして  
所崎平

宮本武蔵『五輪書』における「わざ」と「道」	笠井哲	日本思想史学 二二二
宮廷サロンにみる伝統の継承—寛永文化の評価をめぐって	杉本真理	芸能史研究 一一一
浅井了意の思想	前田一郎	真宗研究 三四
「擬古」の世界認識—古文辞学における表現様式理解をめぐって	沢井啓一	日本文学 三九—一〇
漢字文化圏のなかの武家政権—外交文書作成者の系譜	田中健夫	思想 七九六
『礼儀類典』の成立と概要	所功	国書逸文研究 二二三
山本常朝における「生」と「死」(中)	小池喜明	紀要(東洋大教養課程篇) 二九
「長崎喧嘩」の波紋	佐久間正	紀要(長崎大教養) 三一—一
近世後期の経済思想家正司考祺著『儉法富強録』(六)	秀村選三	産業経済研究(久留米大) 三一—二
江戸時代における合理的経済認識と儒教	藤田貞一郎	社会経済史学 五六—四
西川如見の経済認識と儒教『尊号一件』風説書の成立事情	川口浩	近世史研究(東京芸大) 四
近藤重蔵における「異国」と「異国境取締」	鶴田啓	所報(東京大史料編纂所) 二四
井伊直弼伝における若干の問題点	山口宗之	紀要(九州大九州文化史研) 三五

近代

近世日本における海外情報と琉球の位置	真栄平房昭	思想 七九六
高埜利彦著『近世日本の国家権力と宗教』	深谷克己	史学雑誌 九九—九
王家驊著『日中儒学の比較』	伊東貴之	歴史学研究 六〇七
沼田次郎著『洋学』	杉本勲	日蘭学会会誌 一四—二
辻本雅史著『近世教育思想史の研究—日本における「公教育」思想の源流』	藤本雅彦	史林 七三—五
桂島宣弘	史林 七三—五	
近代日本における「思想」の意味	Carol Gluck 著 (木村勝彦訳)	東洋学術研究 二九—三
中日両国における外来文化摂取の歴史的考察—近代ヨーロッパの文化摂取を中心として	趙建民	史学論叢(別府大) 二〇
大正期の「文化」概念—「文化主義」をめぐって	森一貫	日本文化史研究 一二
儒家倫理と近代日本	王中田	季刊日本思想史 三六
中村正直における西洋思想受容についての一考察—その導入と変容をめぐって	岡本洋之	比較教育学研究 一六
福地桜痴と福沢諭吉—『懐往事談』と『福翁自伝』をめぐって	飯田鼎	三田学会雑誌 八二—四

福沢諭吉と武士道―勝海舟、内村鑑三および新渡部稲造との関連において

飯田 鼎 三田学会雑誌 八三一―一

天皇制教育と正成像―『幼学綱要』を中心に

中村 格 日本文学 三九―一

内村鑑三と進化論

藤田 豊 日本思想史学 二二

成瀬仁蔵と渋沢栄一―その交流と教育思想における接点

影山 礼子 渋沢研究 二

キェルケゴールと西田哲学―死・復活による自由の問題をめぐって

川村 永子 キェルケゴール研究 二〇

日本特殊教育思想史―明治前期の特殊教育思想(一)

大亀 嶋謙一彦 紀要(北海道教育大 社会科学) 四〇―二

柳田国男における「心意現象」の問題

川田 稔 思想 七九三

「三条ノ教則」から「教育勅語」へ―東陽円月の著述を通してその思想的連続性をさぐる

三宅 守常 紀要(日本大教育制度研) 二一

柳田国男のイエ・ムラ論

森田 政裕 研究報告(岐阜大 教育 人文科学) 三八

教育勅語撤回風説事件と中島徳蔵

小股 憲明 人文学报(京都大 人文科学研) 六七

折口信夫「異郷意識の進展」定位の試み(下)

高橋 直治 国学院雑誌 九一―三

大学における「御真影」・「教育勅語」

佐藤 能丸 歴史評論 四七八

西洋への回帰/東洋への回帰―和辻哲郎の人間学と天皇制

酒井 直樹 思想 七九七

私立諸学校への「御真影」下付

小林 輝行 日本歴史 五〇三

和辻哲郎―回帰の軌跡

港 道隆 思想 七九八

「満州国」建国大学の創設と展開―「総力戦」下における高等教育の「革新」

斉藤 利彦 調査研究報告(学習院大 東洋文化研) 三〇

鎖国論の系譜

河原 宏 工(早稲田大 理工) 三〇

真宗と「世直し」状況―廃仏毀釈反対運動を中心に

黒崎 征佑 史苑 五〇―二

ユートピアの変容―一五年戦争期の江渡狄嶺における歴史、天皇、アジア

大畑 裕嗣 紀要(東京大 新聞研) 四一

近代の熱田神宮と角田忠行

阪本 是丸 紀要(国学院大 日本文化研) 六五

三木清の自由主義思想と創造的社会論―ファシズムとスターリニズムに抵抗して

内田 弘 社会科学年報(専修大 社会科学研) 二四

明治維新に於ける仏教―雲照と洪川

里 道德雄 大倉山論集 二八

「学制」期の文部省教科書編纂・供給政策

掛本 勲夫 皇学館論叢 二二―五

王政復古・神仏分離による宗教変革と天理教―明治七年までの天理教の周辺事情

幡 鎌一弘 天理教学研究 二九

明治大嘗祭前史の一考察

武田秀章

神道宗教  
一四〇・一四一

折口信夫の大嘗祭観―天皇  
たる由縁

茂木 栄

国学院雑誌  
九一―七

明治大嘗祭の一考察―国民  
国家の成立と大嘗祭の転  
換

安蘇谷 正彦

国学院雑誌  
九一―七

真俗二諦論についての一考  
察―もう一つの「戦時教学」  
(一)

杵築 宏典

仏教史研究二七

大嘗祭と「政教分離」  
二つの憲法下の天皇制に  
関する一考察―「即位の礼」  
・大嘗祭を前に考える

吉井 蒼生夫

法律時報  
六二―一二

波多野精一の宗教哲学(上)  
天皇の代替りと真宗―西本  
願寺教団の場合

石田 慶和

論集(竜谷大)  
四三六

明治六年札幌神社の大教宣  
布運動と函館

秋元 信英

地域史研究はこ  
だて

天の代替りと西本願寺教  
団の対応―昭和天皇の即位  
に際して

赤松 徹真

竜谷史壇 九六

「大教宣布運動」における  
巡回説教について

福嶋 寛隆 他

紀要(竜谷大  
仏教文化研)  
二八

近代文学と仏教

大河内 昭爾

国文学解釈と鑑  
賞 五五―一二

大谷派のアイヌ教化活動  
―大谷派北海道開教史から  
見た一考察

藤田 光代

社会科学討究  
(早稲田大)  
三五―三

森鷗外と蘭学の系譜

水内 透

山陰地域研究  
(島根大) 山陰  
地域研究総合セ  
ンター) 六

キリスト教による国際化と  
渋沢栄一(英文)

大城 ジョージ

国際教育研究  
(東京学芸大  
海外子女教育セ  
ンター) 一〇

三島由紀夫の天皇思想―事  
件と思想の史的意味につ  
いて

鈴木 貞美

思想 七九七

石川三四郎に於ける社会主  
義とキリスト教

平島 敏幸

研究年報(学習  
院大) 文) 三六

近代転換期の天皇像

安丸 良夫

思想 七八九

大正期東京における葬送儀  
礼の変化と近代化

村上 興匡

宗教研究  
六四―一

明治維新时期における天皇と  
華族

佐々木 克

人文論集(神戸  
商科大) 経済  
研) 二六―一・二

近代天皇制国家の宗教政策  
とキリスト教―日本統治下  
朝鮮を中心にして

蔵田 雅彦

国際文化論集  
(桃山学院大)  
二

維新政府の朝鮮政策と木戸  
孝允

高橋 秀直

早稲田政治経済  
学雑誌 三〇一・三〇二

折口信夫『大嘗祭の本義』  
と「天子非即神論」

牟礼 仁

神道宗教  
一四〇・一四一

明治時代の明治維新論

正田 健一郎

二二

近代天皇制の形成(一)

下山三郎

東京経大会誌  
一六四

天皇をめぐる「賤」「穢」  
の変容―維新変革における  
陰陽師・芸能賤民・夙の  
諸相

高木博志

歴史評論四八六

近代日本における群衆と天  
皇のページェント―視覚的  
支配に関する若干の考察

T・フジタニ  
(吉見俊哉訳)

思想 七九七

国民国家・日本の発現―ナ  
ショナリテイの立論構成  
をめぐって

山室信一

人文学報(京都  
大)人文科学  
研) 六七

「中体西用」と「和魂洋才」

伊原沢周

紀要(追手門学  
院大)文)二四

「中華」の国から「夷狄」  
の国へ―近代中日両国の初  
めでの遣外使節団の西洋  
見聞

王賓

日本学報(大阪  
大) 九

士民革命、あるいは近代日  
本における市民革命につい  
て(三)―大久保利通と分  
一税法案の挫折

蓮沼啓介

神戸法学雑誌  
四〇―一

山田顕義と西南戦争

安井久善

紀要(日本大  
精神文化研) 二一

明治期の来日外国人の日本  
観(一)

針生清人

研究年報(東洋  
大)アジア・ア  
フリカ文化研) 二四

社会契約から文明史へ―福  
沢諭吉の初期国民国家形  
成構想・試論

松沢弘陽

北大法学論集  
四〇―五・六下

福沢諭吉における文明と家  
族―序説

中村敏子

北大法学論集  
四〇―五・六下

福沢諭吉の海外視察と征長  
建白

遠山茂樹

紀要(横浜開港  
資料館) 八

福沢諭吉の対朝鮮文化政略

具仙姫

コリアナ一九九  
〇年夏季号

福沢諭吉の渡米奨励論―福  
沢の交通、アメリカの原  
光景を中心として

立川健治

紀要(富山大  
教養人文・社  
会科学) 二二―二

福沢最古の訳稿「経始概略」  
等について―一九八八―九  
年の寄贈資料紹介

佐志傳

近代日本研究  
(慶応義塾大  
福沢研) 六

「功利主義」

安西敏三

甲南法学  
三一―一

京都府下南山城地方の自由  
民権運動(下)

小泉敦

文化史学 四六

日本における近代民主革命  
―自由民権運動とフランス  
革命

色川大吉

思想 七八九

士族選挙権論争と自由民権  
運動―昂揚期の選挙制度論の  
発展

澤大洋

日本思想史学  
二二

民権志士の政治文化

宮城公子

思想 七九二

成島柳北と自由民権―明治  
一四年以降の『読売新聞』  
を中心として

乾照夫

経営情報科学  
(東京情報大)  
二―四

民衆文化と自由民権派の文  
化運動

上條宏之

歴史評論四七七

近世的思惟と近代的思惟  
―秩父事件を手がかりとし  
て

布川清司

文化学年報(神  
戸大院) 九

壬午軍乱をめぐる自由民権派の朝鮮論  
長谷川 直子  
国際関係学研究 (津田塾大) 一六別冊

井上毅における天皇輔弼体制構想―一元的輔弼体制論の展開とその挫折  
大庭 邦彦  
史観 一二二

開化期朝鮮における井上角五郎の活動と朝鮮観  
李 銀 姫  
お茶の水史学 三二

革命と伝統―日仏民法典編纂過程の比較  
阪 上 孝  
思想 七八九

近代日本のなかのフランス山脈―西園寺公望と中江兆民  
鈴木 良  
立命館言語文化研究 一―二

明治国家における社会と国家―伊藤博文の思想に関する一考察  
木 曾 朗 生  
紀要(明治大院 政治経済) 二七

明治国家の課題と明治憲法―伊藤博文の憲法構想  
〃  
法学政治学論究 (慶応義塾大) 四

明治憲法と天皇制  
大 原 康 男  
紀要(国学院大 日本文化研) 六五

制憲期の天皇制認識  
竹 中 佳 彦  
思想 七九四

明治憲法下での国家指導部における天皇の地位―法制の観点から見て  
E・ロコバント  
〃 七九七

明治憲法下の政教関係  
平 野 武  
公法研究 五二

第五議会における天皇の影―呪縛の構造の進行状況  
飛鳥井 雅 道  
大文学報(京都大学 人文科学研) 六七

木下尚江と国家の問題―一八九〇年代の模索  
岡 野 幸 江  
初期社会主義研究 四

千葉県における社会思想状況―日露戦争前後を中心に  
林 彰  
〃

内村鑑三不敬事件と島貫兵太夫  
相 沢 源 七  
紀要(東北学院大 東北文化研) 二二

日露戦後における日本陸軍の思潮―『偕行社記事』を中心として  
浅 野 和 生  
法学政治学論究 (慶応義塾大) 四

内田魯庵と大逆事件(一)―『自筆本魯庵隨筆』大逆事件関連記事の翻刻と注解  
渡 辺 善 雄  
紀要(宮城教育大 人文科学・社会科学) 二四

幸徳秋水の思想―『平民新聞』に於ける非戦論の検討を中心  
竹 口 知 加 世  
国史学研究 一六

幸徳秋水における伝統と革命  
坂 本 多 加 雄  
研究年報(学習院大 法) 二五

養子否定論と絶家思想―乃木希典の場合  
井 戸 田 博 史  
日本文化史研究 一二

日本思想史上における近代天皇制―天皇機関説の歴史的背景  
尾 藤 正 英  
思想 七九四

吉野作造と地域の交流について  
永 沢 汪 恭  
地方史研究協議会編『交流の日本史―地域からの歴史像』(雄山閣)

近代日本における女性解放の思想と行動―矢島楯子と日本基督教婦人矯風会  
金 子 幸 子  
アジア文化研究 (国際基督教大 アジア文化研) 別冊二

永井柳太郎の植民論・シベリア論  
橋本哲哉  
経済論集(金沢大) 二七

近代天皇制における権力と権威―大正デモクラシー期の考察  
安田浩  
文化評論三五七

関東大震災に対する中国人の認識  
横田豊  
史友 二二

大正デモクラットと人種問題―浮田和民を中心に  
間宮國夫  
人文社会科学研究(早稲田大理工) 三〇

河上肇と『貧乏物語』  
正田庄次郎  
紀要(北里大教養) 二四

李大釗と日本文化―河上肇・大正期の雑誌  
後藤延子  
『国際化と日本文化』(信州大人文) 特定研究報告書

最近の賀川豊彦研究  
小泉洋  
VITA STUDIORUM 三

賀川豊彦のヒューマニズム思想とその実践  
渡辺巳三郎  
部落問題研究 一〇三

大杉栄の精神史の一齣―「無政府主義の手段は果して非科学的乎」にみる二重の屈折  
梅森直之  
初期社会主義研究 四

倫理的主体性の政治像―大山郁夫の政治思想についての一考察(二)  
富田宏治  
法と政治 四一―二・三

晩年の堺利彦  
向井啓二  
国史学研究 一六

西田天香の思想  
栄沢幸二  
社会科学年報(専修大社会科学研) 二四

石原莞爾の思想―満州事変の一断面  
福本修  
社会科学年報(専修大社会科学研) 二四

戦時期に至る河合榮治郎の「リベリズム」―近代日本における個人主義とナショナリズムをめぐって  
岩本典隆  
紀要(明治大院 政治経済) 二七

興亜思想から経済侵略主義へ―国粹主義者福本誠の軌跡  
広瀬玲子  
近代日本研究(慶応義塾大福沢研) 六

地方青壮年にとっての国民再組織―壮年団から翼賛壮年団へ  
山本多佳子  
史論 四三

△国防国家Vの形成―(二) 日本ファシズムの分析視角  
安部博純  
法政論集(北九州大) 一七―三

△国防国家Vの形成―(二) 総力戦思想と国家総動員体制  
〃  
〃 一七―四

革新官僚の思想と行動  
古川隆久  
史学雑誌 九九―四

新体制論者としての太田正孝  
矢野伸幸  
日本歴史五〇二

沖繩における皇民化政策  
安仁屋政昭  
藤原彰・荒井信一編『現代史における戦争責任』(青木書店)

融和運動機関紙誌に見る女性  
黒川みどり  
歴史評論四七九

皇民化政策下の呂運亨  
姜徳相  
調査研究報告(学習院大東洋文化研) 二四



戦前期日米関係の一断面  
—陸軍のアメリカ国民性認  
識をめぐって

反米英思想の史的考察(一)  
(二)—太平洋戦争への思  
想史的道程

「超国家主義」素描

日本軍占領下のジャワにお  
ける教育政策

宗教と国家—三谷隆正の政  
治思想

H・ノーマンの日本近代国  
家成立史論

象徴天皇制の成立について  
の覚書

象徴天皇制の形成要因—日  
本社会党結党時の改憲方  
針

近代天皇制と「以心伝心」  
のシステム

折口信夫の戦後天皇論  
—「女帝考」はなぜ書かれ  
たか

「天皇制批判」の批判(上)・  
(下)

小沢浩著『生き神の思想史』

穂積重行著『明治一法学者  
の出發—穂積陳重をめぐつ  
て』

黒沢文貴

外交時報  
一二六四

平野優

政治経済史学  
二九三・二九四

片山素秀

近代日本研究  
(慶応義塾大  
福沢研) 六

倉沢愛子

『現代史におけ  
る戦争責任』  
三田学会雑誌  
八二・特別号二

柳父罔近

論集(武蔵大)  
三八—一

大谷瑞郎

思想 七九〇

松尾尊兪

歴史学研究  
六〇五

高橋彦博

人文学報(京都  
大)人文科学  
研) 六七

羽賀祥二

思想 七九七

中村生男

歴史評論  
四七八・四七九

藤間生大

日本史研究  
三三五

桂島宣弘

中央大学史紀要  
二

寺崎弘康

平山洋著『大西祝とその時  
代』

原島正

キリスト教史学  
四四

平山洋著『大西祝とその時  
代』

玉懸博之

歴史 七四

小山常実著『天皇機関説と  
国民教育』

山室信一

日本史研究  
三三二

伊藤之雄著『大正デモクラ  
シーと政党政治』

小関素明

〃  
三三三

補遺

・ 中 世

伊勢神宮と勸進—寺院・橋  
・殿舎を中心として

飯田良一

地方史研究協議  
会編『三重そ  
の歴史と交流』  
(雄山閣出版)

近 世

近世後期武芸における修行  
観

笠井哲

倫理学(筑波大)  
六

太宰春台と『産語』

永吉雅夫

紀要(追手門学  
院大)文)二三

反宣長としての主題—『春  
雨物語』序の執筆意識と  
その精神土壌の一端

元田与市

研究報告(姫路  
工業大)  
B—三九

幕末洋学における西南雄藩の位置

杉本 勲

杉本勲編『近代西洋文明との出会い―黎明期の西南雄藩』(思文閣出版)

近 代

自由民権期におけるイギリス功利主義思想の摂取―奥宗光とジェレミ・ベンサム

上野 隆 生

現代史研究三五

日本におけるケルケゴール受容史(英文)

榊 形 公 也

紀要(大阪教育大学) I 人文科学 三八―一

平泉澄の変説について―昭和史学史の一断面

今 谷 明

論叢(横浜市立大学) 人文科学系 四〇―一

## 発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳燭をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

### 日本思想史研究 第二十五号

平成五年三月十五日 印刷  
平成五年三月二十五日 発行

編集代表者 玉 懸 博 之

仙台市宮城野区日の出町二丁目四ノ二

印刷所 (株) 仙台共同印刷

仙台市青葉区川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

